



Press release

American Pharoah Crowned 2015 LONGINES World's Best Racehorse

19 January 2016

アメリカンファラオ【134】が2015年ロンジンワールドベストレースホースにおいてトップの座に輝いた。北米調教馬としては2008年のカーリン以来の快挙である。同馬は37年ぶりに米3冠馬となる偉業を達成し、現役最後のレースとなったブリーダーズカップクラシック(G1)において生涯最高のレーティングを得た。

LONGINES World's Best Racehorse Rankings			
Leading Horses			
Rank	Horse	Rating	Trained
1	AMERICAN PHAROAH (USA)	134	USA
2	GOLDEN HORN (GB)	130	GB
3	SHARED BELIEF (USA)	126	USA
3	TREVE (FR)	126	FR
5	ABLE FRIEND (AUS)	125	HK
5	SOLOW (FR)	125	FR

ブリーダーズカップクラシックを6馬身半差で制した同馬のパフォーマンスをより際立たせているのは、この競走で対戦した他の7頭全てが2015年度のG1勝馬であったことである。

アメリカの年度代表馬にも選ばれた同馬であるが、2015年の成績は8戦7勝であり、その内6勝がG1競走での勝鞍である。先に述べたブリーダーズカップクラシックに加え、ケンタッキーダービー、ブリークネスステークス、ベルモントステークスの米3冠競走の他、アーカンソーダービーやハスケル招待ステークスも制している。

過去20年でアメリカンファラオより高いレーティングを得た北米調教馬は1996年に135ポイントとなったシガーのみである。2008年にはカーリンが130ポイントの評価を得てランキングトップとなっている。さらにこれまで北米の3歳馬で130ポイントとなったのは1996年のスキップアウェイと2001年のポイントギヴンの2頭のみであった。

アメリカンファラオ以外にも2015年に目覚ましい活躍を見せた3歳馬がいる。ランキング第2位となったゴールデンホーン【130】で、その活躍によりヨーロッパの年度代表馬に選ばれた。同馬は英ダービー、エクリプスステークス、愛チャンピオンステークス、凱旋門賞と3か国でG1競走を制した。





同馬が得た 130 ポンドの評価は過去 2 年のトップと並ぶ高い評価である。2014 年にはジャスタウェイが同様の評価を得て、日本調教馬として初めてランキングトップとなった。また 2013 年にはブラックキャビアとトレヴがやはり同様の評価を得てトップで並んだ。

トレヴ **【126】** は、5 歳となった 2015 年においても依然として高い評価を得て、3 位タイでシーズンを終えた。2015 年シーズンの主な勝鞍はサンクルー大賞(G1)とヴェルメイユ賞(G1)である。史上初の 3 連覇を目指して臨んだ凱旋門賞ではゴールデンホーンの 4 着に敗れた。

トレヴと 3 位タイで並んだシェアドビリーフ **【126】** は、2 勝するも故障により残りのシーズンの休養を余儀なくされた。同馬はシーズン初戦のサンアントニオ招待ステークス(G2)で、2014 年のアメリカ年度代表馬カリフォルニアクローム **【121】** を降し快勝した。そのカリフォルニアクロームはドバイワールドカップ(G1)ではプリンズビショップ **【121】** の 2 着となっている。

シェアドビリーフはその後 3 月初旬のサンタアニタハンデ(G1)を快勝した。このパフォーマンスが評価され 126 ポンドの評価を得たものである。

次走となるチャールズタウンクラシックステークス(G2)で故障により競走を中止した同馬は、その後骨盤骨折と診断された。2015 年終盤には調教を再開していた同馬であるが、12 月初旬に疝痛のため残念ながら死亡した。

香港の年度代表馬エイブルフレンド **【125】** は、再びランキング上位に名を連ねた。スチュワーズカップ(G1)、クイーンズシルヴァージュビリーカップ(G1)、チャンピオンズマイル(G1)といったトップクラスの競走での勝利によりランキング第 5 位タイとなっている。なお、同馬は 2014 年には 3 位タイであった。

5 位タイで並んでいるのがマイル部門で活躍したフランス調教馬ソロウ **【125】** である。2015 年は 6 戦無敗で現在 9 連勝中である同馬は世界各国で出走し、ドバイターフ(G1)、イスパーン賞(G1)、クイーンアンステークス(G1)、サセックスステークス(G1)、クイーンエリザベス II 世ステークス(G1)を制した。

第 7 位にランクインしたのがオーダーオブセントジョージ **【124】** である。同馬は愛セントレジャー(G1)では 11 馬身の差をつける圧巻のパフォーマンスを見せた。

今回のランキングでは世界各国を代表する馬が 8 位で並んでいる。その中にはスプリント部門で目覚ましい活躍を見せた豪調教馬ランカンルピー **【123】** とシャトー





クア【123】に加え、ヨーロッパのスプリント部門で活躍したムハーラー【123】がいる。また、香港カップ(G1)を制したエイシンヒカリ【123】がそのパフォーマンスにより、日本調教馬のトップとなった。

また、トレヴに次いで牝馬部門で高い評価を受けた2頭も123ポンドで並んでいる。豪調教馬ウインクス【123】は、牝馬との対戦となったコックスプレート(G1)では、直線抜け出すとクライテリオン【120】に4馬身3/4差をつけ制している。またビホルダー【123】はパシフィッククラシック(G1)を牝馬で初めて制した。同馬はこの競走を8馬身1/4差の圧倒的なパフォーマンスで制している。

その他にも、仏調教馬ドルニヤ【120】はドバイシーマクラシック(G1)を快勝、またファウンド【120】はブリーダーズカップターフ(G1)でゴールデンホーンを降した。メッカズエンジェル【120】はナンソープステークス(G1)を制し、テピン【120】はブリーダーズカップマイル(G1)を制した。ウインクス以下のこれらの牝馬はいずれも牝馬との対戦で結果を残し、120ポンド以上の評価を得たものである。

キーンアイス【122】は重賞競走においてアメリカンファラオを破った唯一の馬として記憶されるであろう。同馬はトラヴァーズステークス(G1)においてアメリカンファラオを3/4馬身差で降し、この評価を得た。

ドゥラメンテ【121】は皐月賞(G1)と東京優駿(日本ダービー)(G1)を制し注目を集めたが、故障により休養を余儀なくされた。また、モーリス【121】が安田記念(G1)、マイルチャンピオンシップ(G1)、香港マイル(G1)と制し、シーズン後半に評価を上げた。

キャプテンオブオール【121】はツォゴサンスプリント(G1)とマーキュリースプリント(G1)を制し、南アフリカのトップとなった。またアルゼンチン調教馬ハイハッピー【120】が伝統の一戦、カルロスペレグリーニ国際大賞(G1)を制し、この評価を得ている。



LONGINES

